



開校35周年

三小だより

令和6年10月31日 発行
<11月号>
江戸川区立南葛西第三小学校
校長 佐久間 貴広

本を通した「ことば」との出会い

私たちは、人生の中で数えきれない人たちと出会います。自分が望む望まないに関わらず、出会うべき人にはどこかで必ず出会うように思います。それと同じような出会いが「ことば」にもあるように思います。悩み、迷い、落ち込み、自信をなくしているとき、それを克服できるヒントをくれる「ことば」との出会いは、やはり出会うべくして出会うのではないのでしょうか。人の心が、すがるように何かを求めているときには、ピタリとはまるような「ことば」があるように思えます。

また、私たちは、様々な場面で「ことば」を贈る機会があります。しかし、自分の思いを的確に伝える「ことば」もあれば、相手の心をこじ開けてぐさりと突き刺すような「ことば」もあります。ですから、一つでも多く「心に触れることば」をストックしておきたいものです。その一つの手段が「読書」だと思います。

ある本に「読書は、生きることを支える言葉と出合うため」、「本は読んだ高さから世界が見える。読んだだけ世界が広がる。」とありました。心に残る「ことば」との出会いは、たとえようなない満足感や幸福感につながります。「ことば」を自分の体験と重ね合わせることで、自分の学んできたことが整理されるような気がします。その一つでも相手に伝えることができれば、誰かの人生を支える力になれるかもしれない…。そう思うと、読書の楽しみが増える気がします。人の心は、何かのきっかけで大きく動きます。そして、その奥にある自分でも気付かないスイッチは、「ことば」によってそっと押されていくのだと思います。

研修会で講師の方から、「子供の読書と大人の読書とでは、全く違う。子供は、本の世界にまっすぐ入り、主人公と共に冒険をする。読み終わってから、さらに空想を膨らませ繰り返し楽しむ。しかし、大人になるにつれ、丸ごと本の世界に飛び込むような読み方は難しくなる。」と聞き、確かにそうだなと思いました。子供の頃に読んだ本は、いつまでも記憶しています。ところどころ忘れていたことはあっても、ある場面、その場面でのセリフやことばが強く心に残り、その後も心を温め、支えてくれることがあると思います。そして、そうした本について誰かに紹介したくなります。どの子供にも、そうした「これが私の本」というような一冊と出合ってほしいと思います。

本校では、今月を「読書月間」として、「高学年から低学年へ読み聞かせ」「先生方のおすすめの本の紹介」「ブックシャッフ（担任以外の教室での読み聞かせ）」などの読書活動の充実に取り組みます。読書月間に限らず、南葛西第二中学校と連携し「三小・南二中必読書百選」の選定や図書ボランティアの皆さんによる読み聞かせなど、年間をとおしてきっかけづくりに努めています。

三小南二中必読書百選【小学校版70冊】

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
分類	1.ろくべえ まってろよ (はいたにけんじろう：文 /ちようしんた：絵)	12.チロアップのきつね (たかはしひろゆき：文・ 絵)	23.花きき山 (斎藤隆介：作)	32.じごくのぞうべえ (田島征彦：作)	42.宮沢賢治作品集 	56.12歳たちの伝説 (後藤龍二：作/二本真希子：絵) 57.蜂蜜の守り人 (上野実穂子：作/二本真希子：絵)
日本文学						
海外文学	2.てぶくろークラウナ みんな (うちだりまこ：やく /エウゲーニ＝エム＝ラ ジョフ：絵)	11.フィーフィーのすてきな夏休み (エミリー＝ロッド：作 /さくまゆみこ：やく/た しおちまこ：絵)	24.としょかんライオン (ミシェル＝ヌードセン： 作) としよかんライオン 	33.ドルフとイッパイアッテナ (斎藤洋：作) 	44.秘密の花園 (F・H・バーネット：作 /橋田寿賀子：訳/堀内誠 一：絵) 45.きつねのホイティ (シビル＝ウェッタシン ハ：作/まつおかまよ：訳)	58.二年間の休養 (ジュール＝ベルヌ：作 /朝倉剛：訳/久田大八： 絵) 59.時をさまようタック (オタリー＝バビット：作 /小野和子：訳)
自然科学	3.どうぶつのおしごと かん (カトウシノブ：文)	14.蝶をつくるあなをほる (アンネ＝メッラー：文・ 絵/いまいずみあかね：こ)	25.せこたちの夏 (藤井洋：写真・文)	34.空のひしゃく北斗七星 (E.C.クラブ：作)	48.ジャガイモの花と夫 (飯島賢直：著)	60.オーロラのむこうに (松本紀生：著) 61.世界のあひだ 

【三小南二中必読書百選～一部抜粋】

～江戸川っ子 study week!～

学力向上部 本間 未卯

10月7日(月)から10月11日(金)までの1週間、今年度2回目の「江戸っ子 study week!」を実施しました。「江戸川っ子 study week!」は、一人一台端末を活用した「ドリルパーク」を積極的に学習に取り入れ、学力向上を目指すための取組で、各学期に1週間ずつ設定されています。各学級、授業中や朝学習の時間、放課後の家庭学習にドリルパークを活用した学習を進めました。

「ドリルパーク」は、場所を選ばずに短時間で学習を進めることができます。また、児童が小学校1年生から中学3年生までの問題を選んで取り組むことができます。

今後も有効に活用していきます。



～イングリッシュキャラバン (英語のシャワー)～

外国語担当 小野寺 智子

10月23日(水)にイングリッシュキャラバンが行われました。ネイティブ講師をお迎えして、英語漬けの時間を過ごしました。5年生は外国の遊び、6年生は買い物する場面を英語で体験しました。日頃の授業とは違い、生きた英語を聞いたり、話したりできる貴重な体験となりました。最初は戸惑いながらフレーズを練習していた子供たちでしたが、自分の使った英語が通じた!と実感すると、積極的に話しに行くようになりました。放課後は昇降口で皆とネイティブ講師がグリーティング(挨拶)。授業がなかった学年も大きな声で“Hello”と声をかけていました。



～三小米ができました～

5年1組 担任 海老原 隆太

春に植えた稲が順調に育ち、10月4日(金)に収穫しました。鎌を使った手作業での稲刈りは、刃の入れ方や力の入れ具合等、想定していたよりも難しいと感じた児童も多く、苦労しながらも少しずつ刈り取ることができました。また、農家さんの大変さやありがたみを感じることができました。便利で効率化された世の中だからこそ、このような体験活動を通してそれぞれの感性を磨いています。



【江戸川区からのお願い】

区のこれからのサービスや負担の在り方について考えるアンケートを実施しています。

10月下旬に広報えどがわ特別号を全戸配布しておりますので、ご確認いただき、江戸川区の将来に向けてぜひご回答ください。



↑詳細はこちら